**第19課　主の宮を建てるようにせよ　2018.5.13**

◎ 賛美(一同) : 韓日404番、韓日432番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : エズラ 1章 1∼4節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

エズラ記は大きく2つの部分に分けることが出来ます。1～6章はクロス勅令の後、ユダの民たちの一時帰還と聖殿の完工についての内容が、そして7～10章は聖殿完工の後エズラの指導下にユダの民たちが御言葉によって新しくなる内容が出てきます。今課では、クロス勅令と共に始まった聖殿建築の過程の中に現れた神様の恵みを分かち合いたいと思います。

**1. クロス勅令**

紀元前 586年、バビロンによってエルサレムの聖殿が破壊され南ユダが滅亡して後、イスラエルには絶望だけが残っているようでした。南ユダの有力な人々はバビロンに捕虜として連れて行かれ、エルサレムに残っている人々は荒れ果ててしまった地でやっとのことで生きており、それ以外の多くの人々は混乱に満ちたエルサレムを離れ、色々な所へと散らばっていきました。滅亡した国家、荒れ果てた領土、ばらばらに散らばった民族、イスラエルは希望のかけらさえ見つけることが難しく思えました。

しかし、神様はこのような状況の中でもイスラエルに向かう希望を捨てられませんでした。神様から遠く遠ざかったイスラエルをさばかれたけれども、それでも神様はもう一度彼らをイスラエルに戻し、イスラエル共同体を回復させることを願われました。このような神様の心を良く知っていたエレミヤ預言者は次のように語っています。

“まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ。――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。”(エレミヤ29:10∼11)

神様がされた希望の約束は、バビロンを滅ぼし、中東の覇権を占有していたペルシヤの王クロスによって成就しました(エズラ1:1)。神様が異邦人であり世の統治者であるクロスを通して働かれたのです。クロスは中東地方を制圧して後、他国人の宗教や風習を尊重する政策を広げましたが、その一環として捕虜として捉えられて来ていたイスラエルの民たちを解放してあげたのでした(紀元前538年)。これに加えて、エルサレム聖殿の再建をゆるし、エルサレム周辺の人々に、物質で聖殿建築を後援するように命じました(エズラ 1:2∼4)。私たちはこのクロスの異邦人解放宣言を‘クロス勅令’と呼びます。天地万物を主管なされる神様が、歴史の流れの中でイスラエルを助けられたのです。神様は私たちにとってどのようなお方でしょうか。私たちが失敗し、倒れたからと言って、倒れたまま放っておかれるお方でしょうか。私たちに回生の機会さえ与えられないお方でしょうか。そうではありません。神様はいつでも、私たちがもう一度回復することを願われる良き神様です。神様は私たちが神様を遠ざけているとしても、休むことなく私たちを見守り、失敗し落胆している時には、立ち上がらせることを願われるのです。クロス勅令のように、奇跡のような出来事を通して、私たちを助けられるお方です。

神様の私たちに向かう御心はいつでも‘希望’によって点綴されます。どのような状況に置かれていようとも、私たちは希望の神様を覚え、信頼しなくてはいけません。

**2. 敵の妨害と克服**

クロス勅令が下されて後、捕虜として連れていかれていた多くのユダの人々がエルサレムへと向かいました。エルサレムに到着した帰還共同体は、律法に記録されている通りに仮庵の祭りを守りながら神様を礼拝し、聖殿再建のための万端の準備をしました。そして聖殿の基礎が置かれた瞬間、多くの人々が大きく感激し新しく建てられるエルサレム聖殿を期待しました(エズラ3:10∼11)。しかし聖殿建築は思いのほか簡単に成されませんでした。聖殿建築を妨害する勢力が現れたからです。‘ユダとベニヤミンの敵’と表現されるサマリア人たちが帰還したユダの人々に、自分たちも聖殿建築に加えてくれるようにと要請しました。しかし、ユダの指導者たちは異邦の考えに染まり、異邦人と通婚していたサマリア人たちを受け入れることは出来なかったため、彼らの要請を拒みました。これに憤慨したサマリア人たちがペルシヤの議管たちを買収してペルシヤの王にユダを告発する手紙を書くなど、聖殿建築を妨害しました (エズラ4:1∼6)。これによってエルサレム聖殿建築は約18年もの間中断しました。

18年間の遅延は、ユダの民たちの聖殿建築に対する意欲を喪失させるのに十分でありました。ユダの民たちは初めてエルサレムに帰還した時には、神様の宮を完工させ、もう一度神の国の共同体を建て上げるという意欲に燃えていましたが、長い間、聖殿建築が中断する中で、ビジョンを失ったまま一日一日を生きていました。外部からの妨害によって始まった問題が、内部の萎縮に固着してしまったのです。

しかし神様は、このように自分たちのすべきことを忘れてしまったユダの民たちを、もう一度立ち上がらせることを願われ、このために神様の人々を立てられました。預言者ハガイとゼカリヤそして民たちの指導者ゼルバベルとヨシュアがその人々でした。神様の人々の指導と助けによって、ユダの民たちは力を得て、聖殿建築を再び推進しはじめました (ゼカリヤ 5:1∼2)。

神様の事は簡単に成されません。人々の妨害、予測していなかった環境の変化等によって妨げられる事が多くあります。しかし、このような障害物にふさがれている時、一番先に振り返らなくてはいけないのは、周辺の人々や環境ではなく、自分自身なのです。問題はいつでもあり得ます。しかし問題よりもより大きな問題は、まさしくその問題の前での私たちの落胆なのです。神様は私たちが問題の城壁の前で、挫折しないことを願われます。事を成される神様に頼り立ち上がることを願われます。加えて私たちは、主の事を行うにあたって、共同体を励まし、動力を引き起こす人にならなくてはいけません。ハガイ、ゼカリヤ、ゼルバベル、ヨシュアたちは、落胆した共同体と共に沈んでいませんでした。意気消沈した共同体にいのちを吹き込みました。共同体がもう一度神様の下さったビジョンを成していくことが出来るように、強く促しました。私たちもまた、家庭、職場、教会などで、その場を立ち上がらせる影響力のある人にならなくてはなりません。

◎ マナの要約

<クロス勅令>　1. 南ユダの滅亡の後、イスラエルには絶望だけが残っているようでした。

2. しかし神様は、異邦人クロスを用いてイスラエルを解放されました。

3. 神様はいつでも、私たちを見守られ、立ち上がらせることを願われる良き神様です。

<敵の妨害と克服>　1. 帰還したユダの民は聖殿再建工事を始めましたがサマリア人の妨害によって建築工事は18年もの間中断されました。

2. 神様は神様の人々を用いてイスラエルの民が聖殿工事を再開するようにされました。

3. 神様は私たちが問題の前で落胆するのではなく、助けて下さる神様を見上げ前進することを願われます。

4. 私たちが属する共同体を見守り励まし、立ち上がらせる人になりましょう。

◎ 日々の中のマナ<隣の人と挨拶>

1. 神様はいつでも私たちを助けられます。　2. 問題の前で落胆しないようにしましょう。

3. 共同体を立ち上がらせる人になりましょう。

<祈り>

1. 失敗と落胆の中にある時、救われる神様を信じる信仰を下さいと祈りましょう。

2. 神様の事を行う中で問題にあった時、落胆することなく前進するようにして下さいと祈りましょう。

3. 共同体が問題にあったとき、共同体を立ち上がらせる人にならせて下さいと祈りましょう。

<とりなしの祈り>隣の人と祈りの課題を分かち合い共に祈りましょう。